

レトロ路地再発見

門司港は歴史とともに栄えてきた。近年では、リバーススプロールによって引き波を受けるように、門司港レトロを中心に同心円状に再開発が進んでいる。

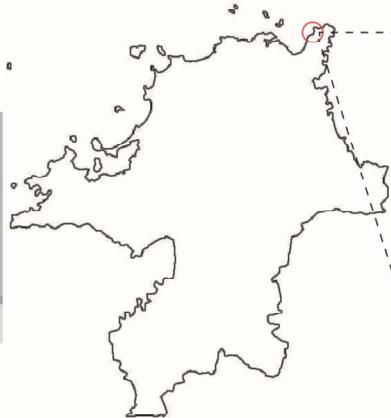
一方で、栄町銀天街界隈では時代とともに、建物の老朽化に伴い、かつての地割を失い、古くからの路地は忘れられつつある。また、地割の複合化によって新たなビルが生産されていく。いま、まさに都市の圧を受け、まちのアイデンティティを失いつつある状態といえる。

無秩序に更新されていく都市。それによって消滅していく地割。しかし、現在の栄町には今でも地割によって出来た路地が残っていて、門司港レトロとは異なるノスタルジックなレトロさを秘めている。そのような栄町のレトロさを門司港の新たな魅力として発信できないだろうか。

そこで私たちは再開発によって形成された門司港レトロと、かつてのディープなレトロ路地が残る栄町をなめらかにつなぐハブを提案する。栄町界隈に路地を発見し、門司港の新たな魅力を創出することで栄町の観光資源の発掘によるまちのアイデンティティの確立をめざす。

門司港レトロ

栄町銀天街



門司港は1982年より港湾整備計画、1987年より観光整備計画が開始され、現在の門司港レトロの景観が形成されている。

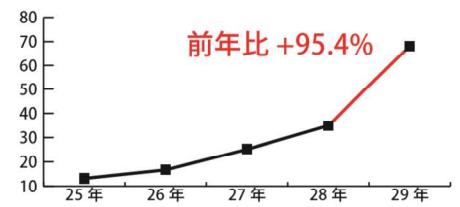
観光整備計画の重点として大正レトロと呼ばれる門司港湾建築群を保存、活用しウォーターフロントの整備を行っている。

平日は閑散としているが休日や展示会、お祭りなどのイベントを催す日には、多くの観光客、市民の集まる場所となり非日常を演出する仕掛けがなされている。

近年、外国人観光客の増加傾向にあり、展示会に参加後、周辺を観光するなど主目的の追従というかたちでの観光なども行われている。

門司港レトロから線路を挟んで、隣接する栄町では門司港レトロの観光客をうまく誘引できずにいる状態で、その理由として線路での分断、整備計画の違いによる街の雰囲気の大きな差、明確なサインがないなどが挙げられる。しかし手つかずの路地を残した昭和レトロの雰囲気は門司港レトロとはまた別のレトロさを感じさせる。食べ歩きの店が多く門司港レトロから流れてきた食事客を受け止める、喫茶が多く存在する。

北九州市外国人観光客の推移(万人)



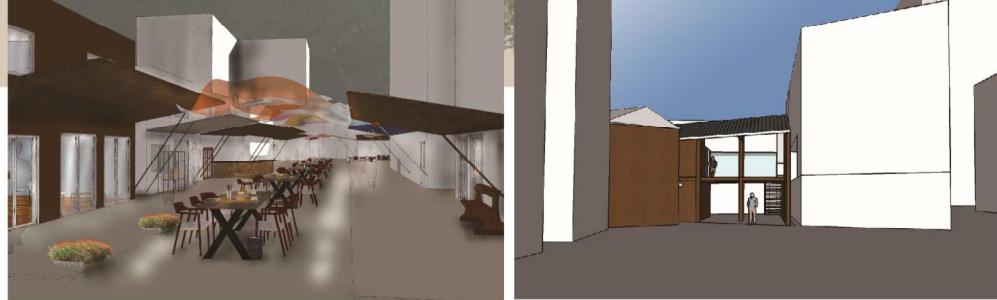
北九州市地区別観光客の構成比(%)



Phase 01

栄町の魅力の発見、魅力の助長

対象敷地となる栄町銀天街界隈に路地を中心とした3つのエリアの提案を行う。提案を行うことで栄町の路地の魅力を発見し、現状の魅力を引き立てる。



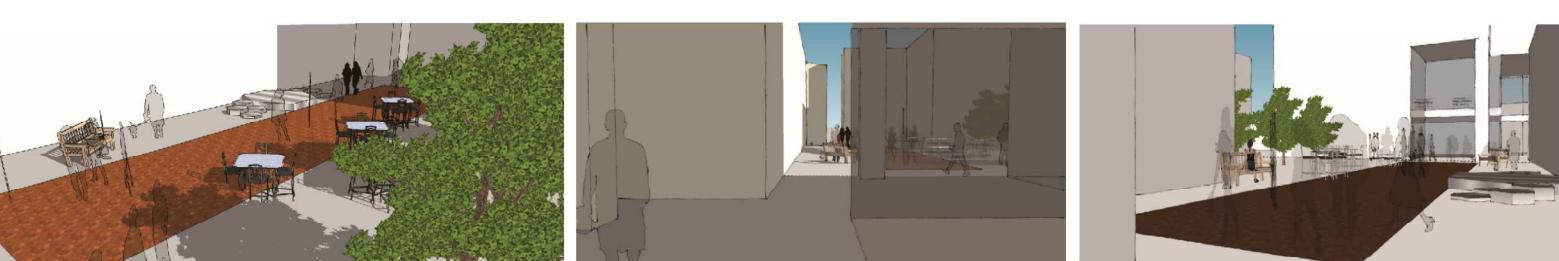
Phase 02

歩道橋と立体路地の挿入



新たに提案した3つの路地エリアを含め、昔からある栄町の魅力を発信する情報を伝えるために門司港レトロと栄町商店街を繋ぐ架け橋となる歩道橋を設置した。さらに、路地に直接アクセスするために歩道橋から商店街全体に放射状に広がる立体路地を形成した。

歩道橋を通じて栄町商店街界隈の建物で隠されていて見えなかった魅力ある路地が立体的に見え、今までとは違った視点で街を見渡すことができるのではなかろうか。



まちにテーピングを施す。資源となる場所の繋ぎ合わせ



門司港に注ぎ込まれる川（現国道3号線）がまだ残っている時代。



田浦港まで貨物線（現レトロライン）が運行。



モータリゼーションにより拡張されていく道路。



区画整理によって現在の栄町の区割りの原型が形成。



門司港、栄町の未来

従来の門司港は海との結びつきが強く、海に沿って発展してきた。そのため海から山側に対しての垂直な軸が弱く、商店街も海に対して平行な配置となっている。本提案によって

- ①垂直軸の歩道橋によって門司港レトロ、栄町をつなぐことで観光客の滞留性の確保だけでなく、門司港の海と山をつなぐことでもあり、都市にいても自然を感じ取ることができるまちになっていく。
- ②樹状に広がる路地は港から離れていくほど住民の日常空間としての路地が伺える。路地の用途が奥性をもって変化していくことで多様な路地の雰囲気が連続するレトロ空間となる。
- ③門司港レトロとは雰囲気の違う栄町界隈のレトロ路地によって、栄町の魅力を全国に発信し、門司港の新たな観光資源となる。

- 高い建物
(ホテル、集合住宅等)
- 低い建物（住宅）
- 橋
- 分離する橋

門司での一日の過ごし方

門司港レトロを目的に観光へ来た人の例



① 10:00 門司港到着



② 11:00 門司港レトロ散策



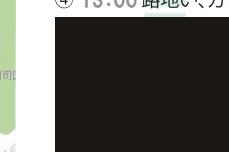
③ 12:00 橋に引き寄せられ栄町方面へ寄り道



⑥ 15:00 買い物を終え、散策終了



④ 13:00 路地い、カフェで休憩



⑤ 13:30 回遊性に沿って門司港レトロ方面へ



レトロ路地を目的に観光へ来た人の例



① 10:00 門司港到着



② 10:30 路地巡りの出発地として橋を利用して栄町方面へ



③ 11:00 中央市場を巡りディープな世界を堪



④ 13:00 広場へ戻り、食べ歩き



⑦ 17:00 買い物を終え、散策終了



⑥ 15:00 三宣楼を目的地とし、路地を散策しながら移動



⑤ 13:30 路地を求めて散策